

問1 室町時代に足利義満が明（みん）と始めた貿易において、正式な貿易船であることを証明するために「勘合」という合い札が用いられた理由として、最も適切な説明を選びなさい。（2018年 佐賀公立入試 類似）

- 沿岸部で略奪行為を行っていた倭寇と、正式な貿易船を区別するため
- 東南アジア方面へ渡航する日本船に、幕府が独占的な許可を与えるため
- 輸入品である銅銭の流通量を制限し、国内の物価を安定させるため
- 朝鮮半島での通商権をめぐり、宗氏が対馬での検問を行うため

問2 足利義満が行った日明貿易（勘合貿易）の仕組みと、当時の経済状況について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2019年 秋田県公立入試 類似）

- 倭寇と正式な貿易船を区別するために勘合という札を用い、輸入された明銭が国内の商業取引で広く流通した。
- 兵庫（大輪田泊）を拠点として宋との貿易を盛んに行い、輸入した宋銭を国内に流通させて貨幣経済の基礎を築いた。
- 大陸との公的な交流を絶ち、国内独自の貨幣を鑄造することで、対外貿易に頼らない自給自足の経済体制を確立した。
- 全国を統一した後に独自の金貨や銀貨を大量に鑄造し、明から輸入されていた銅銭の流通を全面的に禁止した。

問3 13世紀後半に発生した元寇（モンゴル帝国の侵攻）が、その後の鎌倉幕府の衰退につながった理由として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 鳥取公立入試 類似）

- 防衛戦であったため恩賞として与える土地が不足し、御家人の不満が高まったため
- 元と結んだ南京条約により、幕府の外交権が剥奪されたため
- 遣唐使の派遣を継続するために、農民に重い税を課しすぎて一揆が起きたため
- 日明貿易の主導権を巡って、足利氏と北条氏が激しく対立したため

問4 室町幕府の最高職である管領に交代で任命され、幕府を支えた「三管領」と呼ばれる三つの家系の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2024年 山梨公立入試 類似）

- 細川氏・斯波氏・畠山氏
- 山名氏・赤松氏・一色氏
- 北条氏・足利氏・徳川氏
- 藤原氏・平氏・源氏

問5 室町時代の14世紀から15世紀にかけて、農民たちが自立性を強め、自衛や灌漑用水の管理を行うために結成した自治的な村の組織を何といいますか。（2018年 福岡県公立入試 類似）

- 惣（惣村）
- 座
- 蔵屋敷
- 口分田

問6 室町幕府の3代将軍である足利義満が行った政策のうち、当時の国際情勢や幕府の経済基盤の確立に関連する出来事として最も適切なものはどれですか。（2023年 歴史公立入試 類似）

- 明の皇帝から日本国王の称号を得て、勘合を用いて倭寇と区別した貿易を開始した
- 博多や堺の商人を通じて宋から大量の銅銭を輸入し、国内の貨幣経済を促進させた
- ポルトガル船の来航を許可し、キリスト教の布教を認めることで鉄砲を導入した
- 朝鮮半島に出兵して勢力を拡大しようとしたが、現地軍や明の援軍に阻まれ撤退した

問7 中世の北陸地方に位置する加賀国（現在の石川県）では、浄土真宗の信仰で結びついた農民や地侍らが団結し、守護大名を倒して約100年にわたる自治を実現しました。この出来事を何と呼びますか。（2018年 長野県公立入試 類似）

- 一向一揆
- 土一揆
- 国一揆
- 高原・天草一揆

問8 室町幕府の組織図において、将軍の下に置かれた「管領」と、地方に置かれた「鎌倉府」を比較したとき、鎌倉府の役割や性質について説明した文として正しいものを選びなさい。（2018年 千葉県公立入試 類似）

- 足利氏の一族が長官を務め、関東地方の軍事や行政を独自に統括した。
- 将軍の補佐役として、幕府の政治全体を統括する最高責任者であった。
- 承久の乱ののち、朝廷の動きを監視するために設置された軍事拠点であった。
- 元寇に備えるために、九州地方の沿岸警備を目的として設置された。

問9 室町時代の農業について述べた文として、当時の食料生産の実態を正しく表しているものはどれか。（2022年 岐阜公立入試 類似）

- 同じ田で夏に米を、冬に麦を育てる二毛作が広がり、人々の食生活を支えた。
- 灌漑施設の整備が進んだことで、一年のうち同じ田で米を2回作る二期作が全国で一般化した。
- 商品作物の栽培が中心となり、米や麦の代わりに茶や桑のみを専門に育てる農家が急増した。
- 大陸から伝わったサツマイモが凶作に備える救荒作物として全国の田畑で栽培された。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 沿岸部で略奪行為を行っていた倭寇と、 正式な貿易船を区別するため	14世紀後半、東アジアの沿岸地域では「倭寇」と呼ばれる海賊集団が略奪活動を活発化させていました。明の皇帝は日本に対して倭寇の取り締まりを強く求めたため、足利義満はこれに応じて倭寇を鎮圧するとともに、正式な貿易船には明から交付された「勘合」という合札を持参させました。これにより、海賊と幕府公認の貿易船を厳格に区別する仕組みが整いました。なお、「朱印状」を用いて渡航許可を与えたのは後の時代の御朱印船貿易です。
問2	答え 1 倭寇と正式な貿易船を区別するために勘 合という札を用い、輸入された明銭が国 内の商業取引で広く流通した。	足利義満は、明からの要求であった倭寇（海賊）の取り締まりを徹底するため、勘合（かんごう）と呼ばれる合札を使用して正式な貿易船を証明する仕組みを整えました。この貿易により、日本からは銀や刀剣などが輸出され、明からは生糸や書画に加え、大量の銅銭が輸入されました。これらの輸入銭は、中世日本の市場において決済手段として欠かせないものとなり、年貢の代銭納化などの経済的変化をもたらしました。
問3	答え 1 防衛戦であったため恩賞として与える土 地が不足し、御家人の不満が高まったた め	元寇は外国からの侵略を退ける防衛戦であったため、幕府は新たに獲得した土地がありませんでした。そのため、多大な軍費を負担して戦った御家人たちに十分な恩賞（土地）を与えることができず、彼らの生活が困窮して幕府への信頼が失われていきました。
問4	答え 1 細川氏・斯波氏・畠山氏	管領は足利一門の中でも特に権威のある細川・斯波・畠山の三氏から選ばれる慣習があり、これを「三管領」と呼びます。選択肢にある山名氏や赤松氏などは、侍所の長官である所司（しよし）に任命される家柄で「四職（ししき）」と呼ばれ、管領とは区別されます。
問5	答え 1 惣（惣村）	室町時代、農民たちは「寄り合い」と呼ばれる会議を開いて村独自のルール（村の掟）を定め、自分たちで村を運営するようになりました。このような自治組織を「惣（惣村）」と呼びます。選択肢にある「座」は商工業者の同業者組合、「蔵屋敷」は江戸時代に諸藩が年貢米などを売るために設けた施設、「口分田」は古代の律令制下で農民に割り当てられた土地を指します。
問6	答え 1 明の皇帝から日本国王の称号を得て、勘 合を用いて倭寇と区別した貿易を開始し た	足利義満は南北朝の合一を果たして国内を安定させた後、明と国交を結び日明貿易（勘合貿易）を始めました。この貿易では「勘合」という合札を用いることで、正式な貿易船と海賊である倭寇を厳格に区別し、幕府に大きな利益をもたらしました。
問7	答え 1 一向一揆	浄土真宗（一向宗）の門徒たちが起こした抵抗運動を「一向一揆」と呼びます。特に加賀の一向一揆は、守護の富樫氏を自害に追い込み、自分たちの手による政治を長期間維持したことで知られています。
問8	答え 1 足利氏の一族が長官を務め、関東地方の 軍事や行政を独自に統括した。	鎌倉府は、室町幕府が関東10か国（後に関東以外も含む）を支配するために設けた広域行政機関です。中央で将軍を支えた「管領」が有力守護大名（細川・斯波・畠山氏）から選ばれたのに対し、鎌倉府のトップである鎌倉公方は足利氏の一族が独占し、独自の軍事指揮権や行政権を行使した点が特徴です。
問9	答え 1 同じ田で夏に米を、冬に麦を育てる二毛 作が広がり、人々の食生活を支えた。	室町時代の農業の大きな特徴は、米の裏作として麦を育てる二毛作が広く普及したことです。これにより土地の利用効率が高まり、生産量が増加しました。サツマイモの普及は江戸時代中期以降の出来事です。